



日本プライマリ・ケア連合学会
北海道ブロック支部 活動報告

発行人：支部長 木村 眞司

北海道ブロック支部事務局
(松前町立松前病院事務局)
TEL:0139-42-2515 FAX:0139-42-2516
e-mail:hpc.a.jimukyoku@gmail.com

ニュースレター No. 12 (2015. 12)

文責 北海道ブロック支部長 木村眞司 (松前町立松前病院) shkimura@sapmed.ac.jp
北海道ブロック支部事務局アドレス hpc.a.jimukyoku@gmail.com

<お知らせ>

支部経費節減のため、北海道医師会・札幌市医師会にご協力いただき各種行事に場所を使わせて頂いております。関係各位に心から感謝申し上げます。

<今後の支部などの行事予定>

1. 平成 28 年 1 月 30 日 (土) 午後 2 時 **幹事会**
場所：北海道医師会館 会議室 (札幌市中央区大通西 6 丁目)
2. 平成 28 年 3 月 4-6 日 (金土日) **第 2 回北海道地域医療ウィンターキャンプ 2016 in 寿都**
場所：寿都町 (別紙参照)
3. 平成 28 年 5-6 月にかけて **幹事会**
4. 平成 28 年 7 月 2 日 (土) 午後 **北海道ブロック支部地方会**
場所：かでの 2・7 (札幌市中央区北 2 西 7)
5. 平成 28 年秋 **北海道医学大会プライマリ・ケア分科会** (兼北海道プライマリ・ケア研究会学術集会) を北海道プライマリ・ケア研究会 (長瀬清会長) と共催
6. 平成 28 年 11 月 26 日 (土) **北海道プライマリ・ケアフォーラム**
場所：かでの 2・7 (札幌市中央区北 2 西 7)

<活動報告>

1. 幹部会を毎月一回スカイプ会議で行なっています (参加：支部長、副支部長 (川畑、木佐、臺野、山田))。
2. 平成 27 年 10 月 2 日 (金) 13 時 30 分 ~ 17 時 第 2 回サイトビジット

訪問先プログラム名 北海道勤医協 総合医・家庭医後期研修プログラム

訪問先 月寒ファミリークリニック、勤医協中央病院 (いずれも札幌市)

訪問者 3 名

13 時 30 分より月寒ファミリークリニック、14 時 30 分から移動し、15 時 00 分より勤医協中央病院を訪問した。施設の見学、専攻医の診療録の確認、指導医や専攻医へのインタビュー、カンファレンスへの同席などを行った。

日常診療での振り返りの他に、個別の事情に配慮しつつも 1 年間は地方都市で研修する、月 1 回全専攻医が 1 箇所集まって「二本会」と呼ばれる学習会を開催している、指導医も含めて年に 1 回ポートフォリオ発表会を行う、地理的に離れている指導医同士も定期的に会議を持つ、など研修の質を高めるために様々な工夫がなされていた。(文責木佐健悟副支部長)

3. 10月4日(日)9時30分～11時30分 第2回北海道ブロック・ポートフォリオ検討会

場 所：北海道医師会館会議室

参加者：タスクフォース 2名、一般参加者6名、オブザーバー2名

自己紹介、ポートフォリオに関するショートレクチャー(約20分)の後、参加者が持ち寄ったポートフォリオを順番に検討した。専攻医がポートフォリオ作成の際に生じた疑問を、他のプログラムの専攻医や指導医とディスカッションした。

参加者からは、他の意見が聞けて良かった、こういう場があることでポートフォリオを早め早めに書く動機付けになる、といった感想があった。(文責木佐健悟副支部長)

(2と3の両企画を通して：現在は両企画とも、後期研修プログラムやポートフォリオ作成がきちんとできているかの確認というよりは、立ち上げて間もないプログラムや所属する専攻医・指導医が少ないプログラムへのサポートという点を重視して行っている。ただ、そのようなプログラムからの参加者が少なかったため、今後の両企画のあり方も再考する必要があると考えられた。(同))

4. 10月24日(土)14時 北海道ブロック支部幹事会

場所：北海道医師会館

議事

(1) 報告事項

- 1 平成27年度地方会の振り返り
- 2 サイトビジットについて
- 3 指導医養成講習会について
- 4 ポートフォリオ検討会について
- 5 平成27年度北海道プライマリ・ケアフォーラムの開催について
- 6 平成27年度北海道地域医療ウィンターキャンプの開催について
- 7 来年度の地方会について
- 8 総合診療専門医制度について
- 9 選挙について
- 10 北海道プライマリ・ケアネットワークからの補助金について(キャンプ6万円、地方会10万円、フォーラム10万円)
- 11 支部の財政について
- 12 北海道プライマリ・ケア研究会との関係性について(来年秋の北海道医学大会プライマリ・ケア分科会(=北海道プライマリ・ケア研究会学術集会)を共催する)

(2) 協議

- 1 謝礼・交通費・参加費・懇親会費 改定案について(→支部の財政難により改定案が承認されました。基本的には 会員への謝礼はなし とすることに)
- 2 学生への働きかけについて

5. 11月28日(土) 13:00 第3回北海道プライマリ・ケアフォーラム

場所：かでの2・7

勝田琴絵先生(勤医協芦別平和診療所)を実行委員長に学生・若手医師の方々が1年間にわたり企画して下さいました。例年当ブロック支部と北海道庁が主催しています。

ポスターにお示しするような魅力的な内容で会場は満員御礼でした。スタッフも含め140名超が参加されました。旭川医大・札幌医大・北大から多くの医学生が参加。非常に魅力的な学生企画・ワークショップ・特別企画が行なわれ、どのセッションも盛り上がりました。

基調講演は唐津市民病院きたはたの大野每子院長による「家庭医をめざしてジャングルジムをのぼったら」。気さくな大野先生のウィットに富むトークで今までのキャリアを現在に至るまで振り返っていただき参加者皆が魅了されました。

懇親会では各後期研修プログラムの紹介も行なわれ、充実したフォーラムを締めくくりました。企画・運営を担当して下さいました方々、参加者の皆様に心より御礼申し上げます。(文責 木村眞司)

(別紙：フォーラムの案内と北海道保健福祉部医師確保推進グループが作成して下さいました写真による報告)

第3回 北海道 プライマリ・ケア フォーラム

<第3回 北海道プライマリ・ケア フォーラム テーマ>

**「聞きたい! 知りたい! 学びたい!
深めよう あなたのの中の総合診療」**

基調講演

座長: 松前町立松前病院 院長 木村 眞司 先生

**「家庭医をめざして
ジャングルジムをのぼったら」**

講師: 唐津市民病院きたはた 院長
大野 每子 先生



プログラム

12:00～開場・受付

13:00 開会

13:40～15:00 セッション1

① 学生企画「家庭医療の舞台裏へ～若手キャリアプラン～」

② ワークショップ「困ったなあ、そうだみんな相談だ～多職種連携やってみよう～」

③ ワークショップ「在宅でどう判断する?～訪問診療における臨床推論～」

15:20～16:40 セッション2

④ ワークショップ「臨床に活かすための「患者中心の医療」入門」

⑤ 特別企画「専門医をとったらどうなるの?～病院総合医のキャリアプラン～」

⑥ 特別企画「北海道を知ろう～私の町はこんな町～」

17:00～基調講演「家庭医をめざしてジャングルジムをのぼったら」

18:30 閉会

19:00～懇親会

(会場 ホテルポールスター札幌 札幌市中央区北4条西6丁目、会費 3,000円)

参加費

**<学生>
<初期研修医>
無料**

**<支部会員>2,000円
<非支部会員>4,000円**

日時:

平成27年11月28日(土)
13:00～18:30

会場:

北海道立道民活動センター
(かでる2・7)
札幌市中央区北2条西7丁目

♪ 託児所を準備しています♪

最新情報・事前参加申込は
Facebook または支部 HP より
<http://jpca-hokkaido.jp/>

対象:

医療系学生
研修医
若手医師
各種医療専門職

*本フォーラムは「プライマリ・ケア専門医・認定医更新のための単位」として4単位、「プライマリ・ケア認定薬剤師の認定単位」として2単位が認定されます。

主催: 日本プライマリ・ケア連合学会 北海道ブロック支部、北海道(北海道保健福祉部地域医師確保推進室)

共催: 日本プライマリ・ケア連合学会 学生研修医部会 北海道支部

基調講演「家庭医をめざしてジャングルジムをのぼったら」

講師：大野 每子 先生（唐津市民病院きたはた）

座長：木村 眞司 先生（松前町立松前病院）

医者になろうと思ったのは高校生の頃だった。医者のある原風景は子供のころからお世話になっていた開業医の診療所である。その待合室は消毒薬のにおいがし、掘りごたつがあり、漫画本がおいてあった。大病をしなかった私は大病院のことは知らず、私にとって医師になるというのはそんなところで働く医師になるということと同義であった。大学に入り、家庭医という言葉にであったのは4年生のころである。将来何科にすすみたいか興味がある分野について、学生同士で話題になり始めるころだ。私の通っていた診療所の先生みたいになるには何科に進んだらいいのだろうと友人に話したところ、その勉強熱心な友は「それは家庭医っていうんだよ。」と教えてくれた。しかし、研修先探し、大学院探し、就職先探し…すべて手探りだった。家族ができ、管理職になり雪だるま式に増える責任…ロールモデルを探した。いつも何かを探して道をあゆみ、今に至っている。九州の端っこで、現在仲間とともに展開している家庭医としての仕事を紹介し、また今、道を探している人に少しでも参考になればと一体験談を勇気をもってお話ししたい。

① 学生企画「家庭医療の舞台裏へ～若手キャリアプラン～」

講師：中川 久理子 先生（寿都町立寿都診療所、家庭医療専門医・指導医）、葛西 孝健 先生（江別市立病院、プライマリ・ケア認定医）、後藤 郁美 先生（上井草診療所、後期研修医）、高石 恵一 先生（勤医協中央病院、初期研修医）

【家庭医療の舞台裏へ】

プライマリケアに興味はあるけれど、ロールモデルとなる先生が身近に少なくモヤモヤしている皆さん！このセッションでは多様な背景をお持ちの4名の医師をお招きします。プライマリケアを志した動機、年齢・卒後年数に応じたキャリアの展望、プライベートの話、仕事と家庭の両立の裏話などをお話しいただきます(30分)。その後、話を聞いてみたい先生とカフェ形式で質疑応答ができます(50分)。

【ようこそ】

② ワークショップ「困ったなあ、そうだみんなでお話だ～多職種連携やってみよう～」

代表講師：浅沼 史 先生

（勤医協 月寒ファミリークリニック 事務主任）

現在の医療・介護は専門分化が進み、各専門職種が果たす役割もますます高度になっています。一方、患者さん・利用者さんが抱える問題も複雑化しており、単独の専門職種だけの援助ではうまくいかないことも増えてきました。複数の問題が複雑に影響しあっている方に、複数の専門職種が連携してチームで援助することで、事態を少しでも良い方向に変えられないか、日々続く模索をワークショップで追体験していただければと思います。

③ ワークショップ

「在宅でどう判断する？-訪問診療における臨床推論-」

代表講師：今江 章宏 先生

（北海道家庭医療学センター 寿都町立寿都診療所）

「在宅医療（訪問診療）での臨床推論」ってどんなイメージでしょうか？検査機器等の医療資源が限られているのはもちろんですが、他にも病院の救急・入院・外来とはまた違った、在宅ならではの特徴や求められる判断力があります。今回は、実際にあった事例での臨場感あふれる症例カンファレンスを通じて、在宅ならではの臨床推論について皆さんと一緒に考える機会にしたいと思います。

④ ワークショップ

「臨床に活かすための「患者中心の医療」入門」

代表講師：保脇 雄介 先生（松前町立松前病院）

この患者さん、病院では元気だったのに帰るとすぐ悪くなる…。診断・治療は良いはずなのに、すっきりしないことはありませんか？そんな時は「患者中心でない医療」になっているかもしれません。「患者中心の医療」って何？どうやって実際の医療現場で役立つ？教科書的な疾患知識と一人の人間としての患者さんとの間のギャップに気づくこと、またそれを臨床に活かすきっかけになることを目標とした、入門用のワークショップです。

⑤ 特別企画「専門医をとったらどうなるの？～病院総合キャリアプラン～」

座長：菅藤 賢治 先生（勤医協中央病院）

講師：木佐 健悟 先生（倶知安厚生病院）、佐藤 健太 先生（勤医協札幌病院）、山本 浩之 先生（帯広厚生病院）

家庭医療専門医が少しずつアイデンティティを確立していく中、まだまだ不透明なのが病院総合医のキャリア。現行の家庭医療専門医の多くが診療所で働いている状況で、これまで病院総合医はどのようにキャリアを積み重ねてきたのでしょうか？病院総合医として実際に診療されている先生方に、これまでのキャリアの積み重ね方や後輩に向けたメッセージを語っていただきます。

【対象】主に病院総合医を志望する初期～後期研修医、学生さんでも大丈夫です。

⑥ 特別企画「北海道を知ろう～私の町はこんな町～」

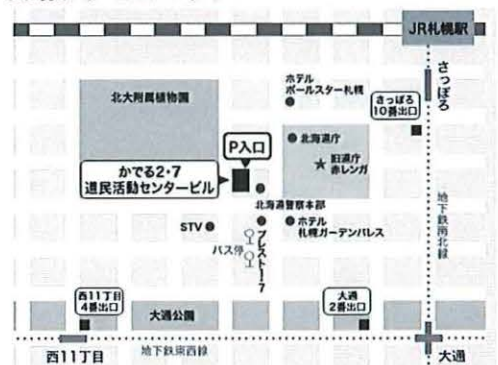
座長：松浦 広昂 先生（手稲家庭医療クリニック）

シンポジスト：大城 忠 先生（道南勤医協江差診療所）、行木 紘一 先生（弟子屈クリニック）、村上 英之 先生（足寄町国民健康保険病院）

北海道内の地域医療の魅力や現場の医師やコメディカル（看護師やMSW）から語っていただきます。診療内容から地域の売り・地域住民との距離の取り方など、深く掘り下げてお届けいたします。（各20分）その後全体でディスカッションをする予定です。（20分）

【対象】地域医療って何ですかという方から実際現場で働いています、という方まで幅広く設定しております。

会場アクセスマップ



★お車でのお越しのお客様は、地下駐車場をご利用ください★

JR 札幌駅	: 徒歩 12 分
地下鉄さっぽろ駅 10 番出口	: 徒歩 7 分
地下鉄大通駅 2 番出口	: 徒歩 9 分
地下鉄西 11 丁目駅 4 番出口	: 徒歩 10 分
JR バス北 1 条西 7 丁目	: 徒歩 3 分
中央バス北 1 条西 7 丁目	: 徒歩 3 分

第3回北海道プライマリ・ケアフォーラムの様子

＜開会挨拶＞		
日本プライマリ・ケア連合学会 北海道ブロック支部長 木村先生	北海道保健福祉部 森技監	実行委員長 勝田先生
		

①学生企画／若手キャリアプラン 「家庭医療の舞台裏へ～若手キャリアプラン～」 >



②ワークショップ／多職種連携 「困ったなあ、そうだみんなで相談だ～多職種連携やってみよう～」



③ワークショップ／臨床推論 「在宅でどう判断する？—訪問診療における臨床推論—」



第3回北海道プライマリ・ケアフォーラムの様子

④ワークショップ／患者中心の医療の方法 「臨床に活かすための「患者中心の医療」入門」



⑤特別企画／シンポジウム1 「専門医をとったらどうなるの？～病院総合医のキャリアプラン～」



⑥特別企画／シンポジウム2 「北海道を知ろう～私の町はこんな町～」



第3回北海道プライマリ・ケアフォーラムの様子

基調講演

「家庭医をめざしてジャングルジムをのぼったら」

講師： 唐津市民病院きたはた 院長 大野 每子 先生



<閉会挨拶>

日本プライマリ・ケア連合学会 北海道ブロック副支部長 川畑先生



ポスター展



会場の様子



北海道地域医療ウィンター キャンプ 2016 in 寿都

主催：北海道地域医療ウィンターキャンプ2016実行委員会
後援：日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部
日程：平成28年3月4日（金）午後集合～6日（日）午後解散（2泊3日）
実施場所：北海道寿都郡寿都町内
宿泊場所：ゆべつのゆコテージ
対象：北海道の医学部に在籍する医学生、北海道出身の医学生（主に1～4年の低学年）
参加定員：12名

◎このキャンプのコンセプト

「地域医療の第一歩」はその地域で暮らす人々の生活を知り、その想いに触れることです。この冬、北海道の西端に位置し、風のまちと言われる寿都町での暮らしを一緒に体験してみませんか？きっと新しい発見があなたを待っていることでしょう。

◎キャンプのコンテンツ

・フィールドワーク1：「訪問」

在宅で療養されている・されていた患者さんのお宅にお伺いしてみましょ。彼らが期待していること、感じていることを肌身で感じてきてください。皆さんが今後すべきことが分かるかもしれません。

・フィールドワーク2：「地域での子育て」

地域で子育てしている母親のサークル活動に参加することで、地域で暮らすこと、地域で子育てをしながら仕事をしていくことなどを感じてみましょう！

・フィールドワーク3：「町歩き」

寿都町の大自然を体感しながら町を散策し、出会った方に突撃インタビューをしてみましょ！地域での暮らし、地域医療で必要な何かを感じることができますよ。

参加申込期間：平成27年12月1日～平成28年2月4日

申し込み・お問い合わせ：日本プライマリ・ケア連合学会北海道ブロック支部事務局まで hpca.jimukyoku@gmail.com